

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 20 日現在

機関番号：34424

研究種目：基礎研究(c)

研究期間：平成 20 年度～平成 24 年度

課題番号：20520191

研究課題名（和文）児童文学・絵本の創作・伝達に関わる実践的活動とその基礎となる作品分析の研究

研究課題名（英文）A Study of Practical Activity and Basic Analysis on the Creation and the Transition of Children's Literature and Picture Books

研究代表者

香曾我部 秀幸 (KOUSOKABE HIDEYUKI)

梅花女子大学・文化表現学部・教授

研究者番号：70460946

研究成果の概要（和文）：研究を始めたとき、「幼児教育・保育の実践をめざすこと」と「児童文学・絵本の創作・伝達・研究を行うこと」は密接に関連すると考えていた。だが、それぞれを目標とする若い女性には、異なる気質が見出され、簡単に2つの目標を合体できないことが、実践的研究からわかってきた。だが、5年間の実践的研究を積み重ねた結果、児童文学・絵本の創作や伝達の実践活動は、幼児教育・保育を目指す若い女性に刺激を与え、新たな技能や知見を獲得し、意欲を生み出していく現象が見出された。すなわち、児童文学・絵本の創作・伝達・研究を巡った実践的な教育は、時間はかかるものの、幼児教育・保育の教育に寄与すると考えられる。

研究成果の概要（英文）：When research was begun, I thought that "aiming at practice of early childhood education and childcare" and "doing creation, transfer, and research of children's literature and a picture-book" were related closely. But, practical research has shown that a different disposition is found out by the young woman aiming at each, and two targets cannot be united easily. But, as a result of repeating the practical research for five years, the practice activities of creation of children's literature and a picture-book or transfer gave the stimulus to the young woman who aims at early childhood education and childcare, new skill and knowledge were acquired, and the phenomenon which produces volition was found out. That is, the practical education involving creation, transfer, and research of children's literature and a picture-book is considered that time contributes to the education of the early childhood education and childcare of this thing.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	800,000	240,000	1,040,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
2012年度	700,000	210,000	910,000
総計	3,000,000	900,000	3,900,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：近・現代文学、児童文学、絵本、創作、読み聞かせ、こども、文庫活動、子育て支援

1. 研究開始当初の背景

(1) こどもが成長するとき、その心がのびのびと豊かになることは何よりも大切である。そのためには、幼いこどもの教育の場において、おとなはこどもに寄り添い、こども自身が内包している力をのびのびと生成させるように見守り、手助けをする必要がある。

こどもの心の成長には、想像力を広げ、さまざまな思いを経験することが重要である。それを実現できるのは、実体験だけではなく物語経験にあることは、これまでも指摘されてきたことであった。だが、これから次世代を育成する若い世代に対して、この理念に基づいた理論や方法が新たに開発され、十分に伝えられているとは言えない。

(2) そこで、先人のこれまでの研究や実践活動を踏まえながら、こどもたちと物語体験やそれに関連したあそびを共有しながら、こどもの心を豊かにするための理論や方法を実践的に研究する。そして、特に絵本の読み聞かせ、ストーリーテリング、紙芝居やペープサートなどの実演、自然と物語を意識したあそびなどの実践を、将来こどもと接する若い世代の女性である梅花女子大学の学生たちと授業や課外活動などで行う。また、その基となる、物語・絵本の創作や作品分析を行う。

このように、こどもたちへの<伝達>だけでなく、その背景としても重要な<創作>や<研究>を、梅花女子大学の授業や課外活動として学生たちと実践的に行う。さらに、それらの成果をさまざまな形で公開し、広くご指摘をいただきながら実践的な研究を深めていく。

(3) これらの一連の実践的な研究を行うに至った背景には、梅花女子大学の児童文学科およびこども学科が抱えている課題がある。児童文学科では、児童文学・絵本をめぐって、<創作>、<伝達>、<研究>の3本柱を持つカリキュラムに基づいて授業や課外活動を行い、教育・研究を積み重ねてきた。

2008年度から幼稚園教諭課程を設置し、こどもの教育にあたる女性の養成も始まることになった。すなわち、児童文学・絵本に関する教育・研究と幼児教育に関する教育・研究を関連付けることが課題として求められていた。

さらに、2010年度からはこども学科が開設され、2012年度をもって児童文学科は終了し、2013年度からはこども学科に完全に移行することが予定された。こども学科は、幼児教育・保育コースと児童文学・絵本コースの2コースから成るので、さまざまな教育・研究の中で、本研究は必要とされていた。

2. 研究の目的

(1) 児童文学・絵本は、こどもやその周辺のおとなにとって、想像力をはばたかせ、心を豊かにし、人間関係を密にすることに、大きな力を持っている。

梅花女子大学文化表現学部児童文学科では、児童文学・絵本の各作品の内容を分析研究し、作品の理解を深める<研究>分野の授業を行っている。また、これを基盤にしながらか、物語や絵本を自由に<創作>し発表すること、こどもたちに<伝達>することを授業や課外活動で実践的に展開している。

これらの授業や課外活動は、学生の感性、想像力、創造力、表現力、思考力を高めることに役立ち、また学生が現在そして将来関わるこどもたちのそれも豊かにしていくことができるように思われる。

(2) 以上の基本理念に基づき、本研究の代表者および研究分担者は、それぞれの専門分野、担当授業・課外活動に関わる分野において、基本となる学問分野の研究、授業・課外活動の教材・指導方法の開発、実践を行うとともに、それらを分析して次の活動に生かすという研究を繰り返してきている。これらの実践活動をさらに充実させ、連携を取ることによって、児童文学・絵本の基礎研究、児童文学・絵本に関する教育の研究、こどもに関する基本研究を進め、学生の専門性を高める教育研究が本研究の目的である。

3. 研究の方法

(1) 2008年度から児童文学科に幼稚園教諭課程が設置され、2010年度からはこども学科が開設され、幼児教育・保育コースと児童文学・絵本コースが設置された。それに伴い、新たに幼稚園教諭課程、保育士養成課程が置かれた。

児童文学科とこども学科は合同で運営され、本研究の研究代表者および研究分担者は両学科の運営に携わっている専任教員から構成されている。

(2) これらの研究代表者、研究分担者は、児童文学・絵本の<創作><伝達><研究>、幼児教育の授業を担当し、学生の課外活動に関わり、両学科の活動・運営に携わりながら、それぞれの専門分野を基盤にした基礎研究、教育研究を行ってきた。

(3) それらは、本学の紀要や機関雑誌、出版物、各分野の専門雑誌、出版物などに発表してきた。また、所属する研究会や学会などで口頭発表をしてきた。

これらの発表の場で示唆や教示を受けることによって、さらに学科の運営の場におい

て協議することによって、また日々の教育研究の場での情報交換によって、互いの実践的教育研究や基盤研究の交流が行われた。

4. 研究成果

(1) 創作・伝達に関わる実践的活動

① 学生制作絵本展

毎年 2～3 回、学内、学外の会場で、原画および手作り絵本などを展示。

② 児童文学・絵本作家による春季講演会

毎年 5～7 月、学内で開催。

2008 年度 岡田淳氏
2009 年度 みやざきひろかず氏
2010 年度 上橋菜穂子氏
2011 年度 鈴木まもる氏
2012 年度 原ゆたか氏

③ 絵本作家によるワークショップ

毎年夏～秋、学内で開催。

2008 年度 スズキコージ氏
2009 年度 長谷川義史氏
2010 年度 宮西達也氏
2011 年度 村上康成氏

④ 児童文学関連・周辺領域の研究者による秋季講演会

毎年 11～12 月、学内で開催。

2008 年度 中川正文氏
2009 年度 横川寿美子氏
2010 年度 神宮輝夫氏
2011 年度 上遠恵子氏
2012 年度 原坂一郎氏

⑤ 学生スタッフによる「梅花おはなし便」が大学近隣の子育て支援サークルや施設で実施するおはなし会

月 1 回程度。

⑥ 「児童文学ワークショップ」「伝承児童文学演習Ⅰ」「日本の伝統的なあそび」などの授業の創作

箕面市を活動拠点とする NPO 法人「人と本を紡ぐ会」の支援を得ながら「民話紙芝居」を創作。また、カルタや絵双六を学びながら、学生の感性を活かした新たなカルタや絵双六を創作。

⑦ 「文庫活動の理論と演習」「絵本読み語りの理論と演習」などの授業において、幼稚園や小学校で実施する文庫活動やおはなし会

梅花幼稚園のこうめ文庫、豊川小学校の朝の読書時間に学生が参加し、教員の指導を受けながら、文庫活動やおはなし会を実施し、さらに振り返りを行う。

(2) (1) の実践的活動の研究および児童文学・絵本の研究の発表

下記の「5. 主な発表論文等」に示したものを主なものとして成果を公表してきた。また、特に示していないが、物語創作分野の授業および課外活動を担当している児童文学作家富安陽子氏、宮下恵菜氏は、自らも多くの作品を公刊している。これは本研究にも大きな刺激を与えている。

(3) 最終年度の成果とそこから得られた本研究の成果

平成24年度の創作分野では、富安陽子氏（研究分担者）、宮下恵菜氏（梅花女子大学児童文学科卒業生、授業「児童文学制作基礎」担当非常勤講師）、その他の童話の創作を継続している卒業生、これらの創作活動の成果としての作品出版が相次ぎ学生たちに驚きを持って受け止められた。

また、春季講演会（5月12日、於・梅花女子大学）での原ゆたか氏（児童文学作家）が語った作家の工夫の数々がその読者でもある学生たちに興味深く受け止められた。

これらの刺激が在校生に影響し、卒業制作（童話）を目指す学生たちが、富安陽子氏の指導の下、手作りの作品集をまとめ、学園祭（11月10日～11日、於・梅花女子大学）で発表する自主活動が見られた。絵本分野でも、第3回新しい創作絵本大賞（梅花こども・絵本・児童文学センター主催）の表彰式&合評会（7月22日、於・梅花女子大学）、第4回同コンクールの募集で刺激を得た学生たちの創作活動の成果は、絵本制作展（2月14日～19日、於・茨木市立ギャラリー）で公表された卒業制作作品や各授業の作品に結実した。

このように、創作分野は指導者自身の精力的な創作活動と卒業生たちの卒業後も継続している活動とその成果としての出版が、在学生の意欲を掻き立てる効果が見出せた。

また、児童文学科創設30周年記念行事の展覧会（9月27日～10月3日、於・心齋橋アセスギャラリー）&フォーラム（11月11日、於・梅花女子大学）および『講演集 児童文学とわたしⅢ』の刊行において、これまでの創作分野、それを支える研究分野の成果が再認識された。

伝達分野では、文庫活動（於・梅花幼稚園 こうめ文庫）、絵本の読み聞かせ活動（於・子育て支援センターのもりの広場、ふくろう広場、あいあい広場）、朝の読書活動（於・豊川小学校）などの授業や課外でのおはなし会の実践が、幼児教育・保育分野の授業ともあいまって、学生の意欲的な活動として積み

重ねられてきた。この分野においては、観点や方法に違いは見られるものの、幼児教育・保育コースに在籍する学生と児童文学・絵本コースに在籍する学生が互いに刺激し合い、技術と知見を高める実践活動が積み上げられた。

卒業後も各図書館や文庫で伝達活動を継続しているケースも少なくなく、東北震災後の支援として、被災地でのおはなし会が鶴野祐介氏（研究分担者）と卒業生2名によって8月に行われた。それをきっかけとして12月と3月の2回にわたって、学内外に呼びかけて児童書を集め、被災地のこどもたちに贈る梅花プロジェクトが学生を中心にして行われた。

両分野共に、発表の場の設定がもたらす効果が示され、継続・蓄積の重要性を再認識させた。また、両分野を支える絵本学や物語理解の研究の必要性も確認することができた。

本学の卒業生で、本学大学院文学研究科児童文学専攻で絵本学研究を行い、文学博士号を取得した鈴木穂波氏が絵本に関する「絵本演習Ⅰ」「絵本演習Ⅱ」を持つなど、本学の卒業生が授業を担当したり、課外活動を指導したりしている。児童文学・絵本の研究を積み重ねてきた卒業生が指導することで、在校生、特に幼児教育・保育コースへの刺激が見られる。

2013年度に卒業論文・卒業制作に取り組むこども学科1期生の中には、児童文学・絵本コースだけでなく、幼児教育・保育コースでも児童文学・絵本の創作に取り組む者が出てきている。絵本やエプロンシアターなど幼児教育・保育分野の教材開発や指導を視野に入れて、伝達方法やそれに関わる作品分析の研究を卒業論文にまとめようとする者も出てきている。さらに、2013年度に幼稚園での教育実習に取り組む者の中で、絵本の読み聞かせなどに自信を持ち、得意な分野として実践してきた者も少なくない。

これらの現象は、次のことを考えさせた。研究を始めたとき、「幼児教育・保育の実践をめざすこと」と「児童文学・絵本の創作・伝達・研究を行うこと」は密接に関連すると考えていたが、実践的研究を進める中で、それぞれを目標とする若い女性には、異なる気質が見出され、簡単に2つの目標を合体できないことがわかってきた。だが、5年間の実践的研究を積み重ねた結果、児童文学・絵本の創作や伝達の実践活動、およびその基盤となる児童文学・絵本の研究は、幼児教育・保育を目指す若い女性に刺激を与え、新たな技能や知見を獲得し、意欲を生み出していく成

果を見出すことができる。すなわち、児童文学・絵本の創作・伝達・研究を巡った実践的な教育は、かなりの時間はかかるものの、幼児教育・保育の教育に寄与すると考えられる。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計19件）

- ① 加藤康子、頼光一代記物の絵における江戸と上方の違い その一 —北尾政美の『〔頼光〕』『絵本英雄鑑』『絵本大江山』を中心にして—、叢 草双紙の翻刻と研究、査読有、第34号、2013、123—161
- ② 鶴野祐介、希望の樹 被災地の子どもに本を：梅花女子大プロジェクト、子どもの文化、査読無、第45号、2013、38—41
- ③ 畠山兆子、原作と映像再話による受容者の物語理解と予測の考察：完訳『小公女』の読書体験がある大学生の場合、梅花女子大学現代人間学部・心理こども学部紀要、査読無、第3号、2012、79—90
- ④ 畠山兆子、原作と映像再話による受容者の物語理解と予測の考察（2）、梅花女子大学心理こども学部紀要、査読無、第2号、2011、63—73
- ⑤ 加藤康子、幕末の豆本『頼光』の表現の特徴、梅花女子大学心理こども学部紀要、査読無、第2号、2011、1—14
- ⑥ 鶴野祐介、子どもはなぜ、こわい話が好きなのか、子ども文化、査読無、第7+8号、2011、20—29
- ⑦ 鶴野祐介、子守唄と昔話のポリフォニー—〈言霊〉と〈唄霊〉の復権に向けて—、昔話 研究と資料、査読無、第39号、2011、5—15
- ⑧ 加藤康子、幼少期の頼光—明治合巻『頼光一代記』を軸に—、叢 草双紙の翻刻と研究、査読有、第32号、2011、151—167
- ⑨ 鶴野祐介、「鼠の嫁入り」の起源と構造—伝承文学にみる「子どものコスモロジー」—、梅花女子大学心理こども学部紀要、査読無、第1号、2010、31—41

- ⑩ 加藤康子、翻刻・合巻『四天王其源』、梅花女子大学心理こども学部紀要、査読無、2010、1—11
- ⑪ 藤井奈津子、教訓から機知へ—幼稚園絵本文庫の「反抗するこども」をテーマにしたプログラム実践—、梅花児童文学、査読無、第18号、2010、1—18
- ⑫ 鶴野祐介、民話紙芝居の制作と上演—昔話伝承の新たな可能性を求めて—、梅花女子大学児童文学・絵本センター研究成果報告書 子どもの本の森、2009、23—39
- ⑬ 香曾我部秀幸、明治大正期の絵本・絵雑誌（大阪府国際児童文学館所蔵）に見る歴史英雄像、梅花女子大学児童文学・絵本センター研究成果報告書 子どもの本の森、2009、1—22
- ⑭ 近藤真理子、読書する女／誤読される女—*The Doctor's Wife*は Sensation Novel ではないのか？、梅花女子大学文化表現学部紀要、査読無、第6号、2009、11—22
- ⑮ 畠山兆子、『小公女』再話の研究、梅花女子大学文化表現学部紀要、査読無、第6号、2009、1—10
- ⑯ 加藤康子、雲に住む鬼たちが天気をあやつる—江戸時代の人々の自然観と遊びごころ—、査読有、昔ばなしで親しむ環境倫理～エコロジーの心を育む読み聞かせ～、2009、169—189
- ⑰ 近藤真理子、子ども部屋へのまなざし—*Rosy*の場合、梅花女子大学文化表現学部紀要、査読無、第5号、2008、45—56
- ⑱ 畠山兆子、物語の変容研究—再話「小公女セーラ」（1985）の場合、梅花女子大学文化表現学部紀要、査読無、第5号、2008、33—44
- ⑲ 鶴野祐介、子どもはなぜ〈あやしさ〉に魅かれるのか—見取り図のスケッチ—（特集〈あやしさ〉に魅かれる子どもたち）、査読無、子どもの文化、40(7)巻、2008、42—50

〔学会発表〕（計7件）

- ① 畠山兆子、原作と映像再話の物語理解と予測の考察—「小公女」のばあい—、日本児童文学学会第51回研究大会、2012年10月27日、千葉大学
- ② 鶴野祐介、子守唄の原像を求めて、日本カレドニア学会第2回研究会、2011年7月11日、クレオ大阪東
- ③ 畠山兆子、原作物語とアニメーション番組・物語理解の比較研究—大学生に対するアンケート調査—、日本児童文学学会、2011年10月30日、東京都市大学
- ④ 鶴野祐介、子守唄と昔話のポリフォニー、日本昔話学会2010年度大会、——2010年7月3日、武庫川女子大学、
- ⑤ 加藤康子、特集児童文学の研究の現在—江戸期絵草紙の魅力、国文学 言語と文芸の会、2009年7月18日、東京文化会館
- ⑥ 鶴野祐介、日本における語り手—聞き手—問題の系譜—研究史の通覧—、アジア民間説話学会第10回国際シンポジウム大会、2008年6月28日、梅花女子大学
- ⑦ 鶴野祐介、スコットランド伝承童謡の源泉としてのアニミズム、日本カレドニア学会2008年度全国大会、2008年9月28日、拓殖大学文京キャンパス

〔図書〕（計11件）

- ① 香曾我部秀幸・鈴木穂波著、翰林書房、絵本をよむこと 「絵本学」入門、2012、222
- ② 香曾我部秀幸・鶴野祐介・他著、ナカニシヤ出版、子ども学 その宇宙を知るために 第2版、2011、226
- ③ 矢野正・小川圭子編・藤井奈津子・他著、嵯峨野書院、保育と環境、2011、145
- ④ 永井聖二・加藤理編・畠山兆子・他著、学文社、子ども社会シリーズ6.消費社会と子どもの文化、2010、179
- ⑤ 鶴野祐介監修・落合美知子著、エイデル研究所、子どもの心に灯をともしわらべうた—実践と理論—、2010、208

- ⑥ 鶴野祐介、昭和堂、伝承児童文学と子どものコスモロジー <あわい>との出会いと別れ、2009、239
- ⑦ 鶴野祐介、久山社、子守唄の原像、2009、136
- ⑧ 梅花女子大学児童文学・絵本センター編・香曾我部秀幸・鶴野祐介・他著、梅花女子大学児童文学・絵本センター、梅花女子大学児童文学・絵本センター研究成果報告書 子どもの本の森、2009、133
- ⑨ 香曾我部秀幸・三宅興子編・香曾我部秀幸・三宅興子・他著、翰林書房、大正期の絵本・絵雑誌の研究 ― 一少年のコレクションを通して―、2009、369
- ⑩ 香曾我部秀幸編・香曾我部秀幸・加藤康子・鈴木穂波・他著、梅花女子大学文化表現学部児童文学科、絵本の歴史と絵本制作、2008、31
- ⑪ 梅花女子大学大学院・伝承児童文学・近代以前日本児童文学合同研究会編・鶴野祐介・加藤康子・他著、梅花女子大学大学院・伝承児童文学・近代以前日本児童文学合同研究会、鼓一伝承児童文学・近代以前日本児童文学 研究と資料 第4号、2008、149

[産業財産権] なし

○出願状況 (計 件)

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：
 出願年月日：
 国内外の別：

○取得状況 (計 件)

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：
 取得年月日：
 国内外の別：

[その他] なし
 ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

横山 充男 (YOKOYAMA MITSUO)
 梅花女子大学・文化表現学部・教授
 研究者番号：70460946
 平成20年度

香曾我部 秀幸 (KOUSOKABE HIDEYUKI)
 梅花女子大学・文化表現学部・教授
 研究者番号：70460946
 平成21年度～平成24年度

(2) 研究分担者

鶴野 祐介 (UNO YUUSUKE)
 梅花女子大学・文化表現学部・教授
 研究者番号：10269970

加藤 康子 (KATO YASUKO)
 梅花女子大学・文化表現学部・教授
 研究者番号：60299005

近藤 眞理子 (KONDO MARIKO)
 梅花女子大学・文化表現学部・教授
 研究者番号：70234953

田中 裕之 (TANAKA HIROYUKI)
 梅花女子大学・文化表現学部・教授
 研究者番号：20268478

富安 陽子 (TOMIYASU YOUKO)
 梅花女子大学・文化表現学部・教授
 研究者番号：90615791

長澤 修一 (NAGASAWA SHUITSU)
 梅花女子大学・文化表現学部・教授
 研究者番号：30164411

畠山 兆子 (HATAKEYAMA TYOUKO)
 梅花女子大学・文化表現学部・教授
 研究者番号：50172911

福井 善子 (FUKUI YOSIKO)
 梅花女子大学・文化表現学部・講師
 研究者番号：20521639

藤井 奈津子 (FUJII NATSUKO)

梅花女子大学・文化表現学部・准教授
研究者番号：50521639

松井 外喜子 (MATSUI TOKIKO)
梅花女子大学・文化表現学部・教授
研究者番号：60131489

(3)連携研究者 なし